

福岡県大牟田市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2022年～2024年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2023年	2024年	2030年（目標値）	達成度（%）
1	年間あたりの新規創業件数 【8.2, 8.9, 9.1, 9.2】	2021年3月 26 件	2023年3月 24 件			2030年 20 件	100%
2	年間あたりの立地企業数（増設含む） 【8.3, 8.9, 9.1, 9.2】	2021年3月 2 社	2023年3月 8 社			2030年 5 社	100%
3	E S Dを通じた地域や世界への貢献の意識（小学5年生、中学2年生） 【4.1, 4.2, 4.7】	2021年3月 91.0 %	2023年3月 91.2 %			2030年 90.0 %以上	100%
4	高齢になっても安心して暮らし続けられると思う40歳以上の市民の割合 【11.1, 11.2, 11.4, 11.7】	2021年3月 55.6 %	2023年3月 51.7 %			2030年 60.0 %	-88%
5	魅力ある都市空間が形成され住みやすいと思う市民の割合 【11.1, 11.2, 11.4, 11.7】	2021年3月 58.1 %	2023年3月 57.2 %			2030年 72.0 %	-6%
6	ごみ総排出量 【12.3, 12.5, 14.1, 14.2】	2021年3月 38,106 t	2023年3月 35,067 t			2030年 32,611 t	55%
7	市民の工口行動の実施率 【12.3, 12.5, 14.1, 14.2】	2021年3月 74.5 %	2023年3月 78.2 %			2030年 100 %	15%

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況（2022年～2024年）

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度（%）
1	企業の活力があふれ成長するまち	年間あたりの新規創業件数	2021年3月 26 件	2023年3月 24 件			2024年（延） 20 件	100%
2	新しい企業・産業が生まれ、はぐくまれるまち	年間あたりの立地企業数（増設含む）	2021年3月 2 社	2023年3月 8 社			2024年（延） 5 社	100%
3	社会を生き抜く力を育成する学校教育が充実しているまち	E S Dを通じた地域や世界への貢献の意識（小学5年生、中学2年生）	2021年3月 91.0 %	2023年3月 91.2 %			2024年 90 %以上	100%
4	障害があっても、みんなと一緒に自分らしく暮らせるまち	障害についての理解度	2021年3月 69.6 %	2023年3月 69.2 %			2024年 72 %	-16%
5	高齢になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまち	高齢になっても安心して暮らし続けられると思う40歳以上の市民の割合	2021年3月 55.6 %	2023年3月 51.7 %			2024年 60 %	-88%
6	魅力ある都市空間が形成されたまち	魅力ある都市空間が形成され住みやすいと思う市民の割合	2021年3月 58.1 %	2023年3月 57.2 %			2024年 72 %	-6%
7	資源が循環する環境にやさしいまち	ごみ総排出量	2021年3月 38,106 t	2023年3月 35,067 t			2024年 34,529 t	84%
8	地球や自然を大切にすまち	市民の工口行動の実施率	2021年3月 74.5 %	2023年3月 78.2 %			2024年 85 %	35%

(3) SDGs未来都市計画推進のKPI達成に係る評価及び課題等

(1) 【指標4】高齢になっても安心して暮らし続けられると思う40歳以上の市民の割合 (2) 【指標5】高齢になっても安心して暮らし続けられると思う40歳以上の市民の割合

■窓口寄せられる市民からの相談件数は、新規で約3,000件/年であり、相談支援のニーズは依然高い状況である。寄せられる相談は、課題が複雑化、複合化している相談も多く、かつ、継続対応が必要な相談件数が20,000件を越し、長期化している。また、終わりの見えない物価高騰や新たな感染症のパンデミックなど日常生活を脅かす出来事が多く起こっており、こうした状況が、「安心して暮らし続けられると思う」市民の割合の減少につながっているものと認識している。近年では、若年層から高齢者まで、相談内容が複雑化・複合化・長期化しており、継続した対応が求められるとともに、年代や属性を問わない相談支援の実施が必要である。

(1) 【指標5】魅力ある都市空間が形成され住みやすいと思う市民の割合 (2) 【指標6】魅力ある都市空間が形成され住みやすいと思う市民の割合

■魅力ある都市空間が形成されたまちについては、良好な都市景観や市街地の形成等に関する施策に対する各構成事業の成果は一定達成されたが、令和2年7月豪雨災害による道路や河川等の災害復旧は進んでいるものの、R2年、R3年と大雨による災害が引き続き起こったため、「住みやすい」と答える市民の割合が回復せず、目標値の達成には至らなかったものとする。今後は、防災基盤の強化も併せて行い、引き続き「住みやすい」まちの実現を図る。

(2) 【指標8】市民のエコ行動の実施率

■エコ行動の実施率は、ここ数年は微増の傾向が続いている。引き続き、体験型の環境学習や出前講座をととしたエコ活動に関する啓発・意識の醸成を進める必要がある。

(2) 【指標4】障害についての理解度

■新型コロナの影響等で予定していた事業を中止せざるを得なかったことにより、2021年3月当初の数値より若干下がる結果となった。そういった影響を受けながらも、事業内容の一部変更、感染防止への配慮等により、アダプテッドスポーツ（障害者や高齢者、子ども等が参加できるスポーツ）を中心としたスポーツ教室や大会を実施した。今後、障害のある人となない人が身近に接する機会等を増やしていくことで、障害への理解がさらに進んでいくものとする。